

令和6年度境港市障がい児者プラン策定・評価委員会 会議録

■ 日 時 令和6年11月27日(水) 10:00～11:15

■ 場 所 境港市保健相談センター講堂

■ 次 第

1 開 会

2 議 事

(1) 「境港市障がい児者プラン」の進捗状況について

(2) その他

3 閉 会

■ 出席者(敬称略)

(委員)

足立博文、岩佐美穂、清水美和子、進亜紀、竹内美智子、田崎昌宏、秋田松夫、山本尚夫、石川肇、柏木香寿子、岸菜孝典、宮本剛志、徳尾勝

(事務局)

黒崎享(福祉保健部長)、足立統(健康づくり推進課長)、池淵賢自(子育て支援課長)、角純也(教育総務課長)、山根幸裕(福祉課長)、西山智絵(福祉課福祉係長)、大東幸生(福祉課主事)

(欠席者) 足立勝美、加藤弘晃

(傍聴者) なし

■ 会議要旨

1 開会

<事務局>

定刻となりましたので、まだお見えでない方もいらっしゃいますが、ただいまから、令和6年度境港市障がい児者プラン策定・評価委員会を開会いたします。よろしくお願いいたします。

それでは初めに、福祉保健部長がご挨拶を申し上げます。

<福祉保健部長>

おはようございます。

本日はお忙しいところ、障がい児者プラン策定・評価委員会にご出席いただきましてありがとうございます。

また委員の皆様におかれましては、平素より市政各般にわたり、ご理解ご協力いただいております。厚く御礼を申し上げます。

本日は障がい児者プランの進捗状況について説明をさせていただきます。ご忌憚のないご意見をいただければと思います。最後までよろしくお願いいたします。

<事務局>

そういたしますと、本日の会議でございますが、15名の委員のうち、欠席のご連絡をいただいておりますのが、2名でございます。

本日の会は過半数のご出席ということでございますので、成立しておりますことを報告いたします。

本日の予定でございますが、概ね1時間半程度と考えておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、委員長よろしくお願いいたします。

2 議事

<委員長>

皆様おはようございます。

本日は、お忙しい中ご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

11月の後半になって参りまして、急に寒さが身に染みるような気候になってきたかなと思っています。急激な変化があって皆様、体調の方など変わりなくお過ごしいただいておりますでしょうか。お体にはご自愛くださいますようよろしくお願いいたします。

さて本日は、先ほども事務局からもお話がありましたが、令和6年度の障がい児者プランの策定・評価委員会というふうになっております。

今年は、もう残り1ヶ月ですが、年度でいうと、今は第3四半期と言われる年に入っております、それも残り約1ヶ月ということで、4分の3を経過しているというような状況かと思います。

今日は、この半年間の状況も報告をさせていただくと、5年度の実績がまとまっているという状況があるかと思いますので、そちらの方の報告などもしていただきながら、皆様とお話を深めていければと思います。また、境港市の今後の方向性なども一緒にご検討ができるような会議になればいいかなというふうに考えておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは初めに資料の確認からさせていただけたらと思います。

事前に皆様の方に郵送で送らせていただいているかと思いますが、お手元の資料をご確認ください。まず会議の次第がついております。資料の方が、1番から6番の資料が皆様、お手元にございますでしょうか。もし、ない方がいらっしゃいましたら、教えていただきましたら、ご準備させていただきますが、いかがでしょうか。

そうしますと、次第に沿って、会議の方を進めていきたいと思います。

まず最初に、(1)「境港市障がい児者プラン」の進捗状況について、資料1から6まで、事務局の方からまとめてご説明いただくということでよろしいでしょうか。

では事務局の方から、説明よろしくお願いいたします。

<事務局>

(1)「境港市障がい児者プラン」の進捗状況について

(資料1～6を説明)

<委員長>

先ほどいろいろと事務局の方からご説明をいただきました。盛りだくさんの内容だったかと思います。

ここからは、委員の皆様の方から、何かそれぞれご意見、ご質問等がございましたら、挙手にて、質問していただけたらと思っております。いかがでしょうか。

特に本年度は評価委員会ということになっておりますので、継続して取り組んでいる内容を、先ほどの資料6を中心にお話が深めていけるといいのかなというふうに個人的には思っております。

<副委員長>

僕の方から何点か質問をさせていただきます。

主に資料6ですが、団体等からの意見に対する取り組みに対する回答がありましたが、やはり図書館にしても、中央公園のリニューアルにしても、これがしっかりPRできるように、当事者の方であったり、ご家族の方であったり、そういった方にきちんと伝えるような周知をお願いしたいなと思っておるのが1点と、例えば、障がいのある児童さんが、今フリースクール等を活用している例というのがあるのでしょうか。もしわかれば、状況を少し聞きたいというところが1点と、もう1点が、6ページの「交流と理解」の意見交換のところに、行政が養護学校などに行って意見交換をする機会を設けられないのかについて、よろしくお願いいたします。

<教育総務課長>

フリースクールについてですが、今年の8月に境港で「鳥取フリースクールこ・ラボ」というところが、県の認可を受けまして、9月から市の方で補助を始めたところであります。

人数については、今日、資料を持ってきていないのではっきりとしたことは言えないですが、小

学校、中学校、なかなか学校に通えない子供というのが、週2回から3回、「こ・ラボ」フリースクールに通っております。

今後でも多分増えてくるのではないかなということを市の方も見込んでおまして、旧図書館があったところに今、教育支援センターのやすらぎルームというのがあり、不登校の児童ですとか生徒を受け入れているところですが、今、徐々にそちらの方が人数が減ってきてまして、フリースクールの方に移っている子というのが、かなり増えているような現状でございます。

<事務局>

図書館と公園のPRに関しましては、公園の方は都市整備課の方とまた連携してPRができるようにしていきたいと思っておりますし、図書館の方は、先日、境港市障がい福祉サービス事業所連絡会の事業所の皆様には、ご案内の方をさせていただきました。

また、当事者団体である3つの団体の方には、社協の事務局を通してご案内の方をさせていただいております。

本年度は、団体と事業所連絡会に属しておられます事業所にご案内をさせていただいて、実施してみようということで、図書館と話をしております。それ以降につきましては、また図書館の方と話をしてどういうふうにPRしていくかというのは考えていきたいと思っております。

<事務局>

3点目の意見交換の中で、養護学校との意見交換ということでしたが、現状では養護学校の方と私どもと意見交換することは行っておりません。

<副委員長>

ありがとうございます。

引き続き、フリースクール等に行かれる方、障がい児の方など、各学校と連携をとってまた情報を共有していただけたらと思います。そして、またこの障がい児者プランの方に反映しないといけない課題等は多分出てくると思いますので、よろしくお願いします。

あとは養護学校の方と直接の会話の場面というのは必要だと思いますので、できたらそういった機会を持っていただけたらと思います。

<委員長>

ありがとうございました。他の委員さんからはいかがでしょうか。

<委員>

資料6の3ページの一番下の⑧で指定管理施設の障がい者の利用料金が半額になりますということで、私の団体で、体育館を使ってトランポリン教室と、あと市民温水プールで水泳教室をしていて、両方で運動をやっているのですが、プールの方は名前が出てないですが、今年度に入るときに、利用料や指導をお願いする料金の一部値上げの話がありまして、それで値上げになるとちょっと利用づらいという話がありました。個人で会費をいただいて運営していますので、値上げになると、その値上げが物価上昇分の数パーセントという段階だいいのですが、何十%ぐらいの単位になりますと金額も結構大きくなるものですから、いろいろ相談したりしてまして、どこにどう相談していいかわからなかったもので、福祉課長の所へ相談に行きまして、いろいろ折衝したり調べていただいたりして、結果的に値上げは見送ることになって、値上げなしで今年度も行きますということで、やらせていただきました。

この度、プールが対象になっているのか、なっていないのか知りたい。もしなっていないければ、なるようにしていただきたいと思っております。

<委員長>

委員からのご意見でしたが、どうでしょうか。

<事務局>

今年度の当初にもそういうご相談がございまして、先ほどもお話がありましたように、今、プールの指定管理がスイミングスクールとなっておりますので、そこでは同じような形で割引制度がさ

れると聞いておりますので、間違いありません。記載はございませんが、そのようにご承知おきいただければと思います。

<委員長>

ありがとうございます。

<委員>

前回の会議で、精神障がい者の市認定の相談員をお願いしておりましたが、その後の進捗状況をよろしかったら教えていただけたらと思います。

<健康づくり推進課長>

精神障がい者の相談員の認定につきましては、今、来年度に向けて予算要求をさせていただいております。他市の状況を伺っておりまして、鳥取、倉吉、北栄町が今やっております、米子市はされてないですが、本市としても必要だなということを考えております。

<委員>

ありがとうございます。2ヶ月1回、倉吉で研修会をやっている、相談を受けやすい技術の習得を引き続きやっていきたいと思っています。

それから人間的には、相談しやすい人間になれるように努力していきたいと思っていますので、よろしくお願いします。

<委員長>

その他の委員の皆様からは、いかがでしょうか。

<委員>

今の報告を聞いておりますと、確実に、ここでの会議等の意見が進捗してきているというのが、私が思うところでございます。やはりこの会議が、良い方向に活用していただいているのではないかなと思っています。引き続き、こういった会議での意見等を充実したものにしていきたいと感じているところです。

私が質問したいのは、相談体制、いわゆる基幹相談支援センター、そういったことを早く設けたらいいのではないかという話が出ております。これについて、県や、各市町村の方と交流があると思いますので、そういった状況でどういったやり方で、早く、こういう相談センターを充実したものにしたいと考えておられるかなと思っています。一応このプランが8年ということになっておりますが、できるだけ早く設置して、スムーズにいけるようにしていかなければいけないかと思うところでございます。現時点の資料では、「相談しております」などありますが、やはり少しでも早く実現して良い方向に持っていかなければいけないと思いますので、お考えを事務局の方からお願いします。

<事務局>

はい、ありがとうございます。

基幹相談支援センターの設置につきまして、令和8年度末までに設置するとしておりますが、8年度当初で設置できるように動けたらとは思ってはおります。今、一般相談を委託しております事業所が2ヶ所あります。そちらの方にご相談をさせていただいて、基幹相談支援センターの設置と、地域生活支援拠点のコーディネーターの配置の方ができたらと考えております。今後詳しい内容をその2ヶ所とお話をさせていただきたいと思いますが、来年度の予算要求の方で、具体的には、例えば、相談事業所の方から、相談員の方を福祉課に派遣していただいて、少しずつ、基幹相談支援センターや地域生活支援協のコーディネーターの仕事の方をしていかなければいけないかということを今のところは考えておりますが、相手のあることですので、2ヶ所の相談支援事業所とお話をさせていただいて、ご相談をさせていただいた上で、具体的には進めていけたらと思っております。

<委員>

前向きに対応していただいております。皆さんの利便性が高まる体制を早くお願いしたいと思っております。

<委員長>

ありがとうございます。

この件に関しては、私も受ける事業者側の立場の人間としてのお話も、少し補足で加えさせていただかないといけないかなというふうに考えておりますので、私の方から少し補足をさせてやってください。

プランの中に、8年度までにはということ、基幹相談支援センターや、先ほど申し上げたとおり、地域生活支援拠点のコーディネーターの配置というものが、目標数値として掲げてあります。その中で、我々は一般相談の事業者として、やはり市の方と協力をしながら、いち早くそういった設置ができるようにというふうに考えているところではございますが、なかなか我々、どこの業界もそうですが、こういった福祉業界、かなり人材不足なところもあって、様々な業務を抱えながら、各事業所で事業展開しているということがあります。その中で来年度、具体的にどのような落としどころがいいのかということなどを、境港市さんとも協議もしながら、提案をいただきながら、またそれを法人内でもそれに対応できるのかどうなのかということの協議をしていかないといけないと思いますので、そういったことを踏まえて取り組んでいければと考えております。

ただ、市の方だけが考えて進めるのではなくて、境港市の良い点としましては、どのような方向性でいくのかということを考える協議の場に私たちの意見も取り入れていただきながらということができているということは、1つ評価ができる点ではないかなと思っています。こういった計画などは、作って動かせばそれで終わりということではなく、やはり中身が伴ってこそ初めて意味があるものではないかというふうに考えておりますので、境港市の方にとって有意義な相談の体制になるように、どこまでできるかというのが、お約束できないのが大変申し訳ないですが、尽力させていただけたらと思いますので、少し補足をさせていただきました。

2つの事業所で相談をしながら、一緒に進めていきますので、よろしくお願いいたします。

<事務局>

ありがとうございます。

先ほど説明いただいたとおり、基幹相談支援センターを、令和8年度にということでございますので、それに向けて、しっかりとご相談させていただきながら、進めていきたいと思っております。ありがとうございます。

<委員長>

その他の委員の皆様からは、何かございませんでしょうか。

<委員>

資料6のところで、今年度から新しくプランに追加した取り組みというところで、昨年度4回、この委員会で話し合っ、追加したようなことについても、早速取り組んでいただいております、ありがとうございます。

資料6の3ページ、⑦学校のところですが、管理職の先生や支援教育の主任の先生は、もちろん専門的に子供たちと関わっておられると思いますが、特別支援学級などの支援に入られている講師の先生方や、年度途中から入ってこられるような先生方もおられると思いますので、そういった先生方にも、同じような対応ができるような研修であるとか、啓発というものも進めていただきたいと思ひますし、私の世代だと、小中学校の教員免許を取った時に、特別支援教育について取ってなかったですが、今だと、1単位2単位ぐらい課程の中に入っています。その時代の人間だとなかなかこういう理解が、研修がないと追いついていけないところもありますし、あとは小学校だと多いかもしれませんが、もともと中学校、高校の免許を持っていたが、小学校で働いておられるというような講師の先生などもおられると思いますので、そういった先生方への研修、昔だと教員免許講習、更新講習があったときは、そういった科目を選べば追加で学ぶこともできましたが、今この制度がなくなりましたので、学校であったり、校内研修であったり、コミュニティスクールの繋がりでいいと思いますが、そういったところでの研修等を進めていただいて、この⑦に書いてあ

るような学校で先生によって対応が違うということがあると、子供たちもよくないでしょうし、保護者の方もそう思われると思いますので、そういったことがないような体制づくりに努めていただきたいということで、これは要望としてお伝えさせていただきたいと思います。

<教育総務課長>

ありがとうございました。

今子供の数というのは、どんどん減ってきていますが、特別支援学級は、少し増えてきている状況にありますので、途中から入ってくる先生などには、特別支援コーディネーターもいますので、そちらの方からでも、しっかり研修するような形で進めていこうと考えております。どうもありがとうございました。

<委員長>

ありがとうございました。その他の委員の方は、いかがですか。

福祉サービスの事業所の委員の方は、いかがでしょうか。感想でもいいと思います。半年間での評価ですが、まだまだプランとしては、スタートという形になるかと思いますが、本当に先ほど委員が言ってくださいましたが、確実に動いているというところが、やはりこう見えてきているというのは、やはり昨年度、皆様に検討を重ねていって、皆様からのいろいろなご意見が反映されているということが表されているのかなと思いますので、やはりこういったところで、また追加でいろいろと話をしていくことによって、ブラッシュアップもされるでしょうし、より良い計画が動いていくという潤滑油になるのではないかなというふうに、個人的には思っております。まだお時間ありますので、ご意見ある方はどうでしょうか。

私の方から先に1点確認をしたいです。2ページの①ですが、図書館の利用についてということで、10月末に月末休館日を利用して、障がいのある方が図書館を利用されたというお話があったかと思いますが、具体的に何名ぐらいの方がご利用されて、利用された感想などは、いかがなものだったのかということが、もしわかれれば、教えていただけると嬉しいです。

<事務局>

10月末に開催しました図書館の利用につきましては、ちょうど、ほっとはあと福祉イベントを11月に行う予定がありまして、試験的にやってみようということで図書館とお話をして、図書館から声をかけていただきました。ほっとはあと福祉イベントの方で実行委員をしておられます皆さん方に声をかけさせていただいて、実際にご参加いただいたのが1事業所ありました。お2人の利用者の方が参加され、その保護者の方もおられましたので、4名の方の参加がありました。

実際に図書館の広いスペースでいろいろな本を読むこともいいなと言っておられましたが、今、移動図書館といって、図書の本を車で運んで、事業所等にも回っていただいていますので、移動図書館で少ない本の中から選ぶほうがいいときもあるなという話がありました。また図書館だと、もしかして破ってしまうかもしれないというご意見もありました。

今は、図書館を他の利用者がいない中で使っていただいていますので、今後、他の利用者があるときにも来ていただきたいと思っていますので、まずは、図書館という場に慣れていただくことが大切だという話はしておりました。

<委員長>

ありがとうございました。

利用してみて、それぞれ課題が出たり、やってみないとわからなかったということ等もあったかと思いますが、何が申し上げたかったかというと、やはり先ほど他の委員からもお話があったことに通ずるところもありますが、インクルーシブというものをどのように考えていくかというところに繋がっていく部分なのかなというふうに個人的には思っています。もちろんその不安があるから、休館日にこういった利用をしてみるということは良いと思いますが、それをそこからどのように展開をしていくのかという展開の仕方が間違ってしまうと、違った方向にいつてしまい、よりセパレートされてしまうような世の中に繋がっていく動きにならないかなという危惧があって、お話を聞かせていただいたところであります。できれば本当にそこから、どう交わっていけるのか、一緒になって取り組めることはどうなのか、どういうことができるのか、どういった配慮があればできるのかというそういう前向きに目指すべき方向性のゴールを間違わないようにした進捗確認という

ものが、今後私たちには必要になるのではというふうに個人的には思っていますので、そういったお話をさせていただきました。

良い方向で、次に繋がっていくような道筋が立てていけるような形ができるといいなと思っていますし、先日のほっとはあとイベントに参加させていただいたときに、ここにもありますが、今年度の実績は、まだ数字は入っていないですが、工作のコーナーなど見させていただくと、すごく良い形で、障がいのある方が工作でいろいろな方と触れ合いながら、一緒にされている姿を見せていただいたりして、すごくいい内容になっていたなというふうに思いますので、そういったところも引き続き取り入れながら、障がいあるなしに関係なく、みんなが楽しめるということにつなげていけるといいのかなというふうに個人的には思っております。

もう1点だけ追加でお話をさせていただくと、防災のことですが、今年の11月に入所施設等で行いましたというお話があったかと思います。これについても、実際に避難をされたりの訓練をされたかと思いますが、ぜひこれは要望としてですが、これは今のところ障がいのある方がどのように避難するかということで、計画などもされているかと思いますが、市全体として、境港市の規模感であれば、もっと広げた地域の住民全体での避難を、障がいあるなし関係なく展開をしていくような訓練を試みるなど、そういった本当にインクルーシブな考え方に基づくような訓練につなげていく方向などを担当の課が違いますが、そういったこともできていると、いざ実際に災害が起きたときに、誰かが取り残されたりなど、そういったことがない形での避難にもなるかなと思いますし、島根原発の再稼働がどうなるかということもあるかと思いますが、今後、本当に原子力災害なども十分に想定をしながらということが、今後の境港市には、やはり重要になってくる部分かなと思います。

その中で障がいのある方だけではなく、地域の方全体でちゃんと避難ができる、そういう訓練・体制づくりというものが、より求められていくのかなと思いますし、地域の中で障がいのある方を知っていただく機会にもなったりして、そのことが非常に障がいに対するご理解とかを深めていく啓発にも繋がる一助にもなるのではないかなというふうに個人的には思っておりますので、ぜひ何かこう広げた計画につなげていっていただけるといいのかなと思ったところでした。

<事務局>

ありがとうございます。

本日の会議の内容でございしますが、関係の課に共有いたしますので、そういったところも含めて、いろいろと協議等々をさせていただくことになるかもしれません。いろいろなご意見をまたお聞かせいただければと思います。ありがとうございます。

<委員長>

ありがとうございます。

ぜひこういった場で出たことを、他の課にも広げていただいて、本当に市全体で良い方向に行くように取り組んでいければと思いますので、よろしくお願いいたします。

その他、皆様の方、よろしいですか。

<委員>

発達障がいの子どものための支援をしています。

今日は意見でなくて、報告に近いですが、本当にいろいろと時代が流れて、動くようになったものもあったなと思っての報告です。資料にも書いていただきましたが、境港の保育園の方へ児童発達支援事業所として手伝いに入っていますので、その点でわかっていることがあります。かなり重度の子どもを年少のときから預かっておられ、首も座らない状態で、全介助の方です。このような子どもも、境港市の保育園は断らない、みんな受け入れてくださっていますし、それから、先ほど委員が言ってくださったように、発達に難しさを抱えて、知的障がいがないという子どもは結構、通常学級にもいますが、むしろ保育所幼稚園だと、特別支援クラスがないので、当たり前インクルージョンしています。本当に1クラスに5.6人はいる時代ですので、おそらく小学校に上がったら、本当に体験したことがない担任の先生は大変だろうかと思います。そういう点での見立てと関わり方のノウハウが、もっともっと広がっていくといいなと思います。

というのも、もう10年以上これだけずっと保育園の先生方と研修を続けていると、知らない先生の方がいないぐらい園の中では、大分、見立ての力なども上手になっておられます。どうやれば

いいかわからない不安感などに、我々も力をお貸ししながらやっていっているというふうに感じています。

あと1つは、それだけ市の中に受け入れてくださっているということもありながら、他の事業所も同じかもしれないですが、手帳を持っている方が、非常勤で働いてくれています。ピアサポートの資格も県の方で取れるようになっていますが、そうすると、看護師の資格を持ちながら、手帳を持っておられる発達障がいの方で、すごく対応の気持ちなどわかってきて、そういう大人の方も一緒にやることができているという何かちょっと時代が進んでいるなと思っております。

<委員長>

ありがとうございます。境港市の実態についてのご報告だったかと思います。いろいろな方がいろいろな形で関わっていけるというのはすごく変わってきたかなと、当事者の方でも、しっかりとピアサポートの部分で力が発揮していただけるそういう体制、社会になりつつあるということだと思いますので、そういった部分を少し伸ばしていくことによって、本当に地域共生社会に近づける一歩になるのかなというふうに個人的には思いました。ありがとうございました。

その他、よろしいでしょうか。

それでは、少し早いですが、(1)「境港市障がい児者プラン」の進捗状況については、以上とさせていただきます。

続きまして、(2) その他としまして、何かございますでしょうか。

事務局の方から、何かございますでしょうか。

また、委員の方から何か報告事項等がございますか。

それでは本日は、予定していた11時半より少し早いですが、本日の委員会は以上をもって閉会としたいと思いますので、引き続き皆様には進捗の確認等々でご協力いただけたらと思いますので、またよろしくお願いいたします。本日はどうもお疲れ様でした。ありがとうございました。